

現役を引退しても好きなワインづくりはやめられない！

フィリップ・ボールナール&アルベール・ポネル

生産地

フランス東部、ジュラ地方のアルボワの街を南に 2 km ほど下ると、標高 400 m 以上の高原に囲まれた小さな村ピュピランがある。ピュピラン村の中心には、あの有名なピエール・オヴェルノワのドメーヌがあるが、彼のドメーヌから200mと離れていない場所にフィリップ・ボールナールの自宅がある。畑はピュピランの丘の斜面にアルベール・ポネルの所有する総面1ha区画が点在し、その中の一つシャルドネのレ・ヴィアンドリはオヴェルノワのシャルドネの区画のすぐ下に隣接する。ジュラ高原最大の支脈を背にして森林地帯が広がり、深い谷が南東に向いているため、ブドウ畑は厳しい冬の寒さと夏季の乾燥に耐えることができる。

歴史

フィリップ・ボールナールは、ピュピラン村で父の代から続くヴィニヨロンの家系で育った。彼が高校を卒業し、1年の軍隊経験を経た後すぐに3haの畑を手に入れ、同時期1975年、ピュピランのワイン農協に就職する。当時、彼の父親は彼にはメカニシャンになってほしかったそうだが、彼は若い頃からヴィニヨロンになることをあこがれていたようだ。ワイン農協では醸造責任者を担当し、農協で働きながら少しずつ自身の畑面積を増やし、1987年には9ha畑を持つようになった。畑仕事が過度に忙しくなったため、1988年にワイン農協の醸造責任者を辞め、ブドウ農家一本に専念する。この頃から、ブドウを農協に売る一方で、毎年家庭消費用に自らのブドウで少量のワインをつくっていた。（これが後にピエール・オヴェルノワの目にとまる）2000年に彼の父親が亡くなり、さらに3.5 haの父親の畑を引継ぎ、計12.5 haの面積を持つにいたる。2005年ドメーヌ・ボールナールを立ち上げ、2011年に家に戻ってきた息子のトニーと一緒にドメーヌの名声を上げていく。2018年にドメーヌの経営権をトニーに継承し、2021年定年期を迎えると同時にドメーヌを完全にトニーに譲渡した。並行して、フィリップは2020年にブルゴーニュのワイン生産者アルベール・ポネルとタッグを組みドメーヌ・ボールナールとは別の新たなプロジェクトを開始した。

生産者

現在、フィリップはピュピランにあるアルベール・ポネルの1ha（そのうち0.45haは2023年に植樹）の畑を1人で管理している（繁忙期は季節労働者が必ず数人手伝う）。管理するブドウ品種は、シャルドネとトゥルソーで樹齢は40年平均。フィリップとアルベール・ポネルの当主ピエールは友人の関係にあり、2018年からピエールはフィリップの助けを借りながらジュラの自社畑を探していた。2020年にシャルドネ0.3haの畑を取得したのを機に、ピエールは畑と醸造の管理をフィリップに依頼した。オフィシャル上では定年退職の身となっているフィリップは、最終的に「ドメーヌの経営はピエール、そして畑と醸造はフィリップが管理しワインについてピエールは一切口を挟まない」という条件の下ピエールとタッグを組むことを承諾。フィリップ・ボールナールのワインが再びアルベール・ポネルを介して公式にリリースされることとなった。2023年にはネゴスを開始し、また同年にシャルドネとプルサールを新たに0.45ha植樹するなど、少しずつだがドメーヌ拡大を目指している。

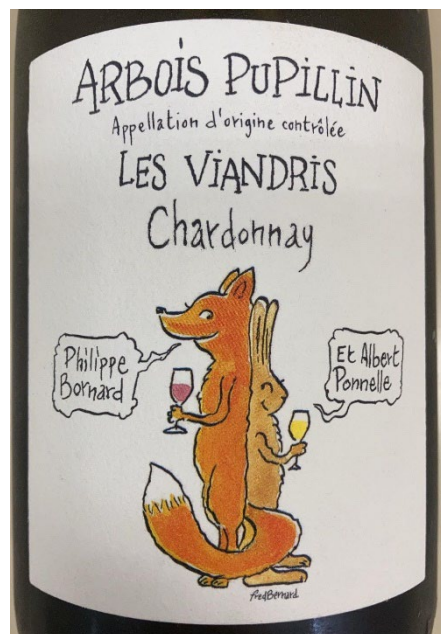
ちょっと一言、独り言

フィリップ・ボールナールがまた再びワインの世界に帰ってきた！ 齢65歳になった2019年に書類の上で定年手続きを行ない、表向きにはドメーヌを引退したフィリップだが、引退しても普通にトニーと一緒に畑から醸造まで全の作業を行っていた。だが、若い考えのトニーと古い考えのフィリップとの間には、仕事の姿勢においても考え方にしても常にジェネレーションギャップが存在し、家族経営にありがちなことかもしれないが、引継ぎを終えた2019年以降は二人の間に分かり合えない壁がどんどん積み上がっていった。「このまま畑や醸造について口うるさく言っても溝が深まるだけ」と判断したフィリップは2021年にドメーヌ・ボールナールを完全に退いた。

時同じくして、ジュラの畑に魅力を感じていたフィリップの友人にしてブルゴーニュの生産者であるアルベール・ポネルのオーナーピエール・ポネルが畑探しに動いていた。現在、ジュラの畑は年々価値が上がっていて、特にAOCアルボワ・ピュピランの地域は畑入手が困難な中、財力のあるピエールはフィリップを介してオヴェルノワのシャルドネのすぐ隣にあるレ・ヴィアンドリの区画を入手することに成功した。同時にドメーヌ引退を知ったピエールは、フィリップと一緒に新しいドメーヌを立ち上げないかと提案した。

オフィシャル的には定年の身であるフィリップ。完全に引退したと言っても、仲間と一緒にプライベート消費用のワインは細々と仕込んでいた。彼自身ワインづくりの情熱は今でも絶えていないが、一方で、年のことを考えるとピエールと新しいドメーヌを立ち上げる気にはならない。悩んだ末、フィリップはピエールに2つの条件を出し、承諾してくれるのであればタッグを組むと約束した。2つの条件とは、ひとつドメーヌの経営はピエールが行いフィリップは一切関わらないこと、そしてもうひとつ畑の管理とワインの醸造はフィリップが手掛けピエールは一切干渉しないことだ。つまりピエールに資金を出してもらい、好きにワインづくりができるのであればタッグを組んでも良いと彼に条件を出したのだ。その条件にピエールは快諾。最終的に、2020年ドメーヌ・アルベール・ポネルからフィリップ・ボールナールの手がけるワインをリリースするというかたちで新たなプロジェクトがスタートすることとなった。

「このプロジェクトは、自分の利益のためと言うよりも、むしろ私の愛すべきクライアントや多くのファンに対する恩返しという意味合いが強い」。実際、彼の突然の引退を惜しむ声や復活を望む声は未だに強く、何よりもフィリップ自身が後に引退したことを一番後悔していた。「引退後、多くのワインファンからメッセージをもらった。その大半が復活を願う声であり、そういう声援を聞くと胸が熱くなる」と語るフィリップ。「アルベール・ポネルが所有する畑は面積が小さく、定年した私でも十分管理できる範囲にあり、何よりオヴェルノワの畑に隣接するレ・ヴィアンドリやトゥルソーで名の高いレ・コルヴェなどどれもポテンシャルの高い畑であることも魅力だ。定年の身にある私が再びワインが仕込めること自体幸せなことであり、自分の仕込んだワインでまたみんなが喜んでくれたら、それは本望だ」と彼は今回の復活の動機を語ってくれた。ちなみに、復活にあたりイメージがドメーヌ・ボールナールのオレンジキツネと被らないよう、エチケットのデザインを変えた。



現在のところ自社畑の面積はわずか1haしかなく、そのうちの0.45haは2023年に植樹をしたばかりで、実際0.3ha分のシャルドネ、そして0.25ha分のトゥルソーしかドメーヌのワインは仕込めなく、そのため割り当ては非常に少なく市場でもとてもレアなワインとなっている。希少価値によるワイン価格の高騰がジュラで問題となっている昨今、そのオークション的な取引を嫌うフィリップは広く行き渡るキュヴェをつくるために2023年から買いブドウのネゴスワインも開始した。